

全校の皆さん、おはようございます。

「今年の夏は暑い！」と、体感温度が年々更新していることを私たちは声高らかに言ってしまう。毎年のように言っているこの言葉ですが、暑くない夏なんてあるのかと自分自身にツツコミをいれながら、自分の力ではどうすることもできないこの事象に嘆いてしまいます。しかし、今年度は「酷暑日」というものが設定されたこともあり、例年以上の暑さが予想されます。さて、ことしの夏私たちは何度「暑い！」と叫ぶのでしょうか。

ところで暑い日がこんなに続くと、授業に身が入らなかったり、服装がだらしくなったりと、本来あるべきは姿に自分がなっていないことがあります。また、ちよつとしたことにもイライラして、他人を傷つけるような行動をとったりするとすらあります。「だって暑いし」と言いたいところでしょうが、本当に「暑さ」にだけ原因があるのでしょうか。

蓮如上人という方が著された『蓮如上人御一代記聞書』に次のような言葉があります。「二度のちがいが一期のちがいなり」。

この言葉は、「たった一度の間違いが、一生の間違いになる」という意味です。手元を確かめないで、服のボタンをいそいでかけ、かけ終わったつもりが、ボタンの穴が一つずつずれていて、あわててやり直すことがあります。なんの事はない、最初のボタン穴を入れ間違ったものだから、全体がずれてしまったわけです。

こんなボタンの穴のかけ違いにも似て、人生もまたその出発点の考え方を間違うと、その人生全体が変な方向へ行ってしまうことがあるのでしょうか。努力するけれども、自分の思いとは裏腹な結果になることは、誰でもたくさんあります。

「初心忘るべからず」という諺がありますが、入学式の日、私たちはどんな服装、どんな気持ちでその日を迎えたでしょうか。初めて迎える伊那西高校の生活に不安と期待の入り交じった複雑な緊張感があつたはずです。だからこそ、一学期の一日一日が新しく生き生きとしたものとして迎えられたのではないのでしょうか。

しかし、学校生活に慣れるに従って、「暑いから」、「寒いから」、「格好悪いから」など、様々な理由をつけて、自分の間違った行為を正当化しようとしてはいいのでしょうか。どんな理由があるにせよ、間違ったことは間違いとして認める勇気があるかないかが、その人の値打ちまで決めるように思われます。

さて、来週から夏休みに入ります。この休みを有意義にするために、この暑さによってあきらかにされる私たちの姿について考えてみて下さい。